

来! BuRaRi
にほんばし

“来! BuRaRi”はライブラリの意味ですが、ぶらりと来てもらえる図書館に!との思いも込めています!
“にほんばし”の題字は、寄席文字書家の橋右女次(たちばなうめじ)さんによるものです。

日本橋図書館
館報

2022.10.25
(No.100)

(題字/橋 右女次)

発行
中央区立日本橋図書館
中央区日本橋人形町
1-1-17
(3669)6207

祝 日本橋図書館 図書館だより通巻100号



第1号発行時の
1986(昭和61)年、日本橋
図書館は日本橋特別出張所
(日本橋蛸殻町)の2階に
ありました。

日本橋特別出張所
(1995(平成7)年撮影)
写真提供: 中央区立京橋図書館

1994(平成6)年に、
日本橋小学校複合施設
(日本橋人形町)に移り、
現在にいたります。



(撮影 日本橋図書館)



日本橋図書館広報誌「来! BuRaRiにほんばし」の前身である「としょかんだより」が発行されたのは、1986(昭和61)年4月。当時の日本橋図書館は、日本橋特別出張所(日本橋蛸殻町)の建物内にあり、図書館システムもコンピュータ化される前でした。

それから36年、日本橋図書館の図書館だよりは通巻100号を迎えます。そのため今号は、「祝・日本橋図書館 図書館だより 通巻100号」と題して、1号から99号まで図書館だよりの内容を中心に、日本橋図書館や時代の移り変わりを年表でたどっていきます。

100号発行までの間、元号も昭和・平成・令和と変わり、社会の移り変わりにともない図書館のシステムも目まぐるしく変化しました。

日本橋図書館を1号発行のころから知っているという方も、最近ご利用くださるようになった方も、暫し時間旅行におつきあいくださいますと幸いです。

1号～100号の中で、気になる特集や記事を年表にしました!



日本橋図書館だより100号のあゆみ

★1 第1号の誌面は、文字もすべて手書きでした。



★2 目録カードとは、本のタイトル、著者名などの情報が書かれたカード。検索機が普及する前は、本を探すとき、このカードを1枚1枚見て探しました。

★3 日本橋図書館にある高田敏子氏著作



『日本語を味わう
名詩入門13 高田敏子』
高田敏子/著
萩原昌好/編
中島梨絵/画
あすなろ書房

号数 (発行年月)	掲載された主な特集記事、展示など	その頃 世の中では
No. 1 (1986. 4)	「としょかんだより」第1号発行。新刊案内、所蔵雑誌の種類増加のお知らせなど。★1	1986.5 ダイアナ妃来日
No. 3 (1986.10)	「子どもの本読んでみませんか」：子どもと子どもの本を知る手がかりになる本を紹介。	1986.11 三原山噴火
No. 4 (1987. 1)	「リクエスト・ベスト10」：1年のリクエストを振り返るランキングを初掲載。1位は渡辺淳一『化身』上・下。	1987.4 国鉄民営化
No. 9 (1988. 4)	「マメ知識その2『目録カード……利用していますか?』」：当時の本の検索方法である目録カードの使い方を紹介。★2 登録数、蔵書数などの統計を初掲載。	1988.3 東京ドーム完成 青函トンネル開通
No.13 (1989. 4)	「消費税の本あれこれ」：1989年4月に消費税が導入されたことに伴い、消費税に関する本を紹介。	1989.1 「平成」と改元 1989.4 消費税導入
No.15 (1989.10)	「特集 いま地球がたいへんだ」：異常気象、オゾン層とフロンガスなど環境問題に関する本を紹介。	1989.10 株価・バブル崩壊
No.16 (1990. 1)	「特集 暮らし・いきいき あなたの余暇活用法は?」：週休2日制で増えた余暇時間の過ごし方を提案する本を紹介。	1990.10 株価・バブル崩壊
としょかん だより増刊号 (1991. 6)	「平成6年、新しい図書館に生まれ変わります!」：1994(平成6)年に、日本橋人形町・日本橋小学校の複合施設(現在の図書館の住所)へ移転するお知らせ。	1991.3 都庁落成 1991.5 雲仙普賢岳噴火 による土石流・ 火砕流の発生
No.22 (1991. 7)	「高価本 大型本めじろおし!」：当時図書館に所蔵していた高価な大型本を紹介。	1991.7 高価本 大型本めじろおし!
No.23 (1991.11)	「これが新しくできる日本橋図書館です!」：新館(現日本橋小学校の5・6階)のレイアウトを紹介。	1991.11 これが新しくできる日本橋図書館です!
No.24 (1992. 1)	「日本橋図書館のあゆみ」(シリーズはNo.26まで)：1909年～1992年7月までの日本橋図書館に関する事項の年表。トピックス「日本橋ゆかりの詩人高田敏子さん」★3	1992.1 日本橋図書館のあゆみ
No.25 (1992. 9)	「お知らせ」：①この年の7月1日から図書館の閉館時間が平日は午後7時までになる。②コンピュータ化に向けて本にバーコードが貼られる。	1992.9 毛利衛、日本人 宇宙飛行士として 初めて宇宙へ
No.26 (1993. 3)	「人形町・蛸殻町ウォッチング」：日本橋人形町・日本橋蛸殻町にある由緒ある「看板建築」を紹介。	1993.5 Jリーグ開幕
としょかん だより増刊号 (1993. 7)	「年間貸出冊数が10万冊を突破!」：1992年度は、登録者数が5,000人を超え、貸出冊数も初めて10万冊を突破した。	1993.8 レインボーブリッジ開通

号数 (発行年月)	掲載された主な特集記事、展示など	その頃 世の中では
No.27 (1994.10)	「としょかんだより」を「来！ BuRaRiにほんばし」に改名。「 新館オープンしました。 」：日本橋図書館が日本橋人形町に移転した記念号。コンピュータでの蔵書検索やCDの貸出等、新サービスの紹介。 「 特集 長谷川時雨の仕事展 」：開館記念展として開催。長谷川時雨研究家・森下真理氏の寄稿もあり。★4	1994.9 関西国際空港開港
No.28 (1995.4)	「 日本橋ゆかりの人物 」：明治以降の文化人・事業家を日本橋地区の町ごとに紹介。	1995.1 阪神・淡路大震災
No.29 (1996.3)	「 日本橋としょかんで化石探し!! 」：1階ホール壁にあるアンモナイトやバレムナイトの化石の紹介。★5 「 日本橋 消えた町懐かしい地名 」掲載開始。(特集はNo.32まで)	
No.30 (1996.9)	寄稿「 どんぐりのおはなし会の今 」：子どもたちに色々な絵本を届けたい地域のお母様たちの集まりから始まった、読みきかせとお話の会の活動。★6	1996.12 原爆ドーム・厳島神社が世界遺産に登録される
No.31 (1997.5)	「 土曜日の図書館が変わります。 」：土曜日の閉館時間が夕方5時から夜7時に延長されたことのご案内。	
No.33 (1997.12)	「 ジュサブロー・語った！舞った!! 」：辻村ジュサブローさん講演会「ジュサブロー・人形を語る」の様子やダイジェスト。★7 「 親子で楽しむ絵本講座(第1回) 」：乳幼児が絵本とふれあう意義や、初めての読み聞かせにおすすめ絵本を紹介。★6	1997.12 東京湾アクアラインが開通
No.34 (1998.4)	「 シリーズ：町名の由来 」掲載開始。(シリーズはNo.57まで)	1998.2 長野冬季オリンピック開催
No.36 (1998.12)	「 川本三郎氏熱く語る! 」：川本三郎さんの講演会「映画と東京」の講演ダイジェスト。古き良き東京下町を中心とした映画のお話。★8	1999.5 日本橋が国の重要文化財に指定される
No.40 (2000.3)	「 日曜日全日開館4月より始まる!! 」：それまで隔週休館だった日曜日が、全日開館になるお知らせ。	2000.9 三宅島再噴火で全島避難
No.45 (2001.12)	「 平成14年1月から、図書館のコンピュータシステムが新しくなります! 」：インターネットでの蔵書検索や利用者端末でリクエスト等ができるようになる。	2001.11 新改札システム設置Suicaカード利用開始
No.46 (2002.3)	「 直木賞作家・山本一力氏に聞く! 」：この年、小説『あかね空』で直木賞を受賞した山本一力さんへのインタビュー記事。	
No.48 (2002.12)	「 楽しかった一日子ども図書館員 」：子ども図書館員として図書館の仕事を体験した子どもたちの感想。	2002.8 住民基本台帳法施行
No.49 (2003.3)	「 江戸開府400年 時代小説の舞台となった日本橋界限 」：この年、江戸幕府開府400年を迎えたことに因み、日本橋を舞台にした時代小説とガイド本の紹介。	2003.5 個人情報保護法など個人情報保護関連5法成立
No.50 (2003.7)	「 うれしい図書館訪問 」：日本橋中学校の一・二年生による図書館訪問があり、いただいた感想を掲載。	

★4 日本橋図書館にある
長谷川時雨著作



『新編 近代美人伝(上)』
長谷川時雨/著 杉本苑子/編
岩波書店

★5 壁のアンモナイト化石
の一つです。



★6 「どんぐりのおはなし会」と「親子で楽しむ絵本講座」は、現在も日本橋図書館で開催されているイベントです。

★7 辻村寿三郎…人形師、衣装デザイン、演出、脚本等幅広く活躍されています。1996年、日本橋に常設展示アトリエとして「ジュサブロー館」を開館しました。(2015年閉館)

★8 日本橋図書館にある
川本三郎著作



『映画のメリーゴーラウンド』
川本三郎/著
文藝春秋

号数 (発行年月)	掲載された主な特集記事、展示など	その頃 世の中では
No.54 (2005.1)	「応援します。生涯学習」：生涯学習を応援するため2004年12月より祝日も開館することになったPR。(当時毎週月曜日は休館日。)	2005.2 地球温暖化防止のための京都議定書発効
No.56 (2005.7)	「数字で見る図書館のこの1年」：インターネット予約を開始したことにより、予約件数が約140%増加している。 日本橋図書館改築10周年記念講演「戦争と平和を語る集い」記録集刊行のお知らせ。	
No.57 (2006.1)	「日本橋図書館のちょっとだけ文学賞講座」：芥川賞・直木賞にはじまり新設された「このミステリーがすごい!大賞」「本屋大賞」なども紹介。	2006.8 冥王星が矮惑星に降格
No.60 (2006.12)	「医療・健康情報に関心高まる」：聖路加看護大学実践開発研究センター内の聖路加健康ナビスポット「るかなび」の見学記。 シリーズ「日本橋ぶらり散歩」掲載開始(シリーズはNo.73まで)。	2007.2 第一回東京マラソン開催 2007.6 清洲橋、永代橋、勝鬨橋が国の重要文化財に認定 2007.10 郵政民営化
No.61 (2007.3)	「オードリー・ヘプバーン展」：展示コーナーで展示を開催したのに伴い、映画評論家 水野晴郎氏に寄稿して頂いた文「オードリーと私」を掲載。	
No.63 (2007.11)	「日本橋生まれの画家・茂田井武」：2007年が日本橋区本銀町4丁目11番(現・日本橋本町4丁目5番)生まれの画家・茂田井武の生誕100年にあたる年のため展示を開催。◆1	
No.67 (2009.3)	「中央区立図書館のホームページが新しくなりました!」：2009年1月にデザインだけでなく、地域資料がデジタル化され、子ども向け、10代向けのページが新設されたことを紹介。	
No.69 (2009.12)	「日本橋図書館生誕100周年」：10月には人形町出身の江戸東京博物館館長をお招きし「江戸時代の日本橋界限」という内容で、また、11月には聖路加国際病院副院長に小児科医としての体験談や絵本の紹介をまじえて「いのちの大切さについて」の講演会を開催。 館内では1909年に開館した日本橋図書館の「日本橋図書館100年のあゆみ展」を実施。◆2	2009.12 江戸バス運行開始
No.73 (2011.4)	「日本橋架橋100年“日本橋”特集」2011年で日本橋架橋100年を迎える年にあたるため、日本橋の歴史を年表と写真付きで解説。	2010.6 はやぶさ7年ぶりに地球へ帰還
No.74 (2011.7)	この年の3月11日に発生した東日本大震災での日本橋図書館被害の様子を報告。また、関東大震災時の被害状況と比較。◆3 シリーズ「日本橋地区の橋」掲載開始(シリーズはNo.84まで)	2011.7 女子サッカーワールドカップでなでしこジャパン優勝

◆1 日本橋図書館にある
茂田井武著作



『挿絵叢書6
茂田井武(一)』
中村圭子/編
皓星社

◆2 日本橋図書館は1909年、
城東小学校内に日本橋簡
易図書館として誕生。中
央区立の図書館では最初
に設立されました。



1965年城東小学校内に
あった日本橋図書館の入口
(写真提供:中央区立京橋図書館)

◆3 日本橋図書館の東日本
大震災当時の写真



(撮影 日本橋図書館)

号数 (発行年月)	掲載された主な特集記事、展示など	その頃 世の中では
No.78 (2012.12)	「日本橋かるた」: 歴史ある日本橋のことを、かるたにのせて伝えていきたいと2010年に誕生した郷土かるたの紹介。読み句は一般公募の中から選ばれた。◇1	2012.5 東京スカイツリー 開業
No.81 (2013.12)	「平成26年1月5日から、中央区立図書館がリニューアルします。」: ICタグによる資料管理が始まることにより、自動貸出機・返却機が導入される。	2013.9 2020年のオリ ンピック・パリ ンピック開催地 が東京に決まる
No.83 (2014.7)	「特集 図書館の裏側を公開!特別整理期間(曝書)の舞台裏」: 特別整理期間中どのような作業をしているのか、写真を交え詳しく紹介。「数字で見る日本橋図書館のこの1年」: 『新参者』が2011年から3年連続貸出1位を独占。◇2	2014.9 御嶽山噴火
No.84 (2014.11)	「特集 日本橋生まれの作家・著名人」: 図書館内に「日本橋ゆかりの作家コーナー」ができる。◇3	
No.85 (2015.3)	「シリーズ企画 日本橋地区の寺・神社」掲載開始(現在も継続中)	2015.6 改正公職選挙法 が成立し、選挙 年齢が18歳以上 に引き下げとなる
No.86 (2015.10)	「特集 中央区と映画」: “中央区まるごとミュージアム2015”に日本橋図書館が初参加。「名作映画鑑賞会」と「中央区と映画にまつわる図書展」を開催。	2016.7 初の女性都知事 となる小池百合 子都知事誕生
No.87 (2016.3)	紙面がカラーになる。「日本橋図書館のフロア移転工事等に伴う図書館の休館について」: 日本橋小学校の増改築工事にともない、図書館も一時休館になるお知らせ。	2017.2 プレミアム・フラ イデー実施
No.89 (2017.3)	「完全リニューアルオープンのお知らせ」: この年の4月1日に6・7Fにフロア移転。移転した館内の紹介。	2018.1 築地市場最後の 初競り
No.93 (2019.3)	「中央区の平成史」: 2019年4月を以って平成の時代も終わるため、図書館や社会の移り変わりを年表で紹介。日本橋図書館では、1994年から3館がオンラインでつながるようになったこともあり、平成29年(2017)年は平成元(1989)年と比べて登録人数は約8倍、貸出冊数は約5.5倍以上に増加した。	2019.5 令和に改元
No.94 (2019.11)	「江戸の金座」: 日本橋本石町にあった、江戸時代に日本で唯一金貨を創ることのできた場所「金座」を紹介。	2020 新型コロナウイ ルス感染拡大
No.98 (2021.10)	「特集 渋沢栄一と日本橋」: 中央区とも深い関わりがある渋沢栄一に関する展示を開催。	2021.7 東京2020オリ ンピック・パリ ンピック開催
No.99 (2022.3)	「シュルツさんと『ピーナッツ』の仲間たち」: チャールズ・M・シュルツ氏の生誕100年を記念して特集。「バリアフリー映画会」: 通常の映画に字幕や音声ガイドがついた『武士の家計簿』を上映。	
No.100 (2022.10)	「祝・日本橋図書館図書館だより通巻100号」	

◇1 「日本橋かるた」は、日本橋図書館も所蔵しています。

◇2 『新参者』東野圭吾作のミステリー「加賀恭一郎シリーズ」の一作。当時、著者の生活拠点の一部だった日本橋地区が舞台となっています。

◇3 日本橋コーナーは、現在も日本橋図書館にあります。日本橋地域の資料のほか、日本橋にゆかりのある人物の関連資料を展示しています。



(撮影 日本橋図書館)

これからも日本橋図書館と「来! BuRaRi にほんばし」をよろしくお願ひいたします。



参考文献・URL 『日本史年表・地図』児玉幸多編／吉川弘文館／2022年
『語り継ぐ昭和平成の時代』清水直人編／里文出版／2019年
『新訂版 昭和・平成史年表』平凡社／2009年
『Jr.中央区歴史・文化ずかん』中央区立京橋図書館／2013年
『辻村寿三郎作品集 真田十勇士』辻村寿三郎作 高木素生撮影／復刊ドットコム／2016年
『このミステリーがすごい! 2010年版』宝島社／2009年
文化庁「国指定文化財等データベース」(<https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index>)
辻村寿三郎公式ホームページ (<http://www.jusaburo.net/top.html>)

過去の『としょかんだより』『来! BuRaRi にほんばし』は日本橋図書館でご覧になれます。

今回、年表でご覧いただいた記事の中で詳しくご覧になりたいものは、日本橋図書館で『としょかんだより』『来! BuRaRi にほんばし』の本誌をご覧ください。どちらも閲覧資料として保管してございます。当時を懐かしく振り返ったり、現在との変化を感じたり、これを機にぜひご利用ください。

※今号の「シリーズ企画 日本橋地区の寺・神社」のページはお休みです。

図書館からのお知らせ

中央区立図書館の 月～土の開館時間が 午後9時までになりました

2022(令和4)年4月から、中央区立図書館の月～土の開館時間が午後9時までになりました。

図書館をご利用していただける時間が増えましたので、どうぞお立ちください。



夜のイベント続々実施!

月～土の開館が午後9時までになったため、4/22「夜のホール開放 CDを聴きながら」や、7/30「日本橋コンサート 黄昏どきに奏でるアコーディオンの調べ～アコースティックギターの響きとともに～」など、夜のイベントを開催しました。

4/9に開催した「夜のおはなし会」では、夜をテーマにしたおはなしや大型絵本に、参加されたお子さんたちも保護者の方たちも、普段のおはなし会とは少し違った雰囲気を楽しんでいただきました。スカイツリーの絵本を読んだ後、会場の窓からライトアップしたスカイツリーを見たことも好評でした。



▲夜のおはなし会開催の様子

..... 展示のご案内

7階展示コーナー

『江戸の旅と暮らし』 令和4年10月21日～令和4年12月21日

6階児童室ミニ展示

『発行部数1000000部以上の本』 令和4年10月1日～令和4年11月30日

編 集 後 記

今回、過去の図書館だよりを調べていく中で、日本橋図書館を利用してくださる皆さんに、図書館をよりよく活用していただけるよう、時代時代で変化を重ねてきた深い歴史を感じました。

これからも地域に根ざした、親しみを持って利用される図書館を目指して、日本橋図書館を「来! BuRaRi にほんばし」と共にますます盛り上げていきたいです。